



本との出会い

わたしたちの羽合小学校では子どもたちがたくさんの本と出会えるように、アロハ図書館タイムや図書委員会のイベントなどたくさんの取組を行っています。11月末までの図書館貸出冊数の集計を見ると、全校で一人あたり平均133冊の図書が貸し出されています。4月から8ヶ月の間に今年も子どもたちがたくさんの本に出会っていることは大変うれしいことです。高学年でも5の3の133冊を筆頭に平均100冊前後の読書量はすばらしいと思います。

本を読むことの効果として

- 語彙が増え表現力が豊かになる
- 多面的なものの見方や考え方に触れることができる
- 体験できない世界にふれ視野を広げることができる
- 洞察力・想像力を養い、自分の考えを豊かに表現することができる

など挙げればきりがありません。本は「心の栄養」だとも言われます。自分の生き方に大きな影響を与える本にぜひ出会ってほしいと思います。多読の中からじっくり腰を据えて

読み込む本に出会ってほしいなあと思います。

私は実に根気のない小学生でした。プラモデルも途中止め、借りた本もなかなか最後まで読み切ることができず、貸し出し期限になると返却するような有様でした。ところが4年生くらいの時「シートン動物記」の1冊を読み切ってから本がきちんと読めるようになり、それからシャーロック＝ホームズや怪盗ルパン、二十面相などの推理小説から駄弁やミリタリー、小説から旅行ガイドまで読書の守備範囲は広がり、私の世界は大きく広がりました。

名探偵ホームズの作者はコナン＝ドイル、ホームズはベーカー街に住んでいます。アガサ＝クリスティはポアロという名探偵を生みだし、江戸川乱歩は明智小五郎を生み出します。「江戸川コナン」が主人公の名探偵コナンは北栄町出身の青山剛昌さんの代表作ですが、人や町などの名前を見ると青山さんも私と同じような読書歴があるかも知れません。私は北栄町が合併する時「北栄」ではなく「米花(べいか)町」になるのでは？とっていました。

子どもたちにもたくさんの出会いをしてほしいと思います。

【インフルエンザに注意】

平成26年12月9日(火)～11日(木)の間、6年2組を学級閉鎖にすることにしました。先週の月曜日には1年2組のインフルエンザの罹患者が急増加してびっくりしましたが、今回も月曜日の急増です。インフルエンザは潜伏期間が2日程度だと言われますから、週末から休みにかけて感染したものと考えられます。いずれにしても手洗い、マスク着用、人混みへの不用の外出を避け、流行をやり過ぎすしかないようです。ご心配をおかけして申し訳ありません。よろしく願いします。

羽合小学校 寺谷英則